



元気みなぎる通信

川内たかゆき後援会

〒889-1802 宮崎県都城市山之口町花木 2253-6
TEL・FAX：0986（77）5298



《市議として半年が経過》

盛夏の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より、川内たかゆき並びに後援会に対し多大なるご支援を頂き誠にありがとうございます。

市議として半年が経過し二回目の議会を無事終えることができました。今回の6月議会に置いては初日から議会規則の難しさを体験したこと、最終日には世間を騒がせております、新燃岳降灰収集運搬にかかわる水増し詐欺事件に関して地方自治法第100条の規定により、100条委員会が設置される等初めての経験も多数あり、改めて重責を痛感いたしました。

地域の課題解決や多岐にわたる現状の把握、議員としての資質向上、何より大好きな都元の元気のために行動していく難しさを日々痛感しております。

まだまだ、地域の皆様とのふれあい、語り合いが不足しておりますので、今後も引き続きご指導、ご支援くださいます様、何卒宜しくお願い致します。

【6月議会 一般質問抜粋】

◎今後のまちづくりに対する本市の考え方について

問) 2009年に「都市計画マスタープラン」が策定されているが、「誰もが住み続けたい居心地の良いまちをめざす」とうたわれている「住」についてお尋ねします。

答) 都市計画マスタープランは、20年後の平成40年を目標年次としています。本プランには、地域生活拠点を「市街地系生活拠点」「田園系生活拠点」に分類しています。

「市街地系生活拠点」は、中心市街地に隣接する姫城、小松原、妻ヶ丘、祝吉、五十市、横市、沖水の7地区であり一定の住環境を保護する観点から、暮らしを支える医療・福祉・店舗・事務所・遊技施設等、複合的に立地湯堂を図る地域です。

「田園系生活拠点」は、旧4町と庄内、西岳、志和地及び中郷地区の中心部を位置づけております。この拠点については田園系居住空間としての魅力を活かしつつ、暮らしを支える医療・福祉・中規模程度の店舗等、日常の生活利便性を確保し、ゆとりある居住空間の形成を進めるための土地利用誘導を図る地域です。

問) 二つの生活拠点について世帯数の推移はどのようになっているのか？

答) 平成18年度から25年度までの推移について、「市街地系生活拠点」については**2500世帯の増加**、「田園系生活拠点」については**757世帯減少**しています。

しかしながら、現段階で世帯数の変動とマスタープランの直接的な因果関係があるとは考えられません。

- 過去に合併した地域で世帯数が減少している。都市計画の見直しが必要ではないか。
- 都市計画審議会土地利用専門部会議事録では、田園系生活拠点の位置付けに対し多くの懸念が示されていた。田園系生活拠点の計画をより明確に、充実すべきである。
- 都市計画マスタープランや本市に存在する様々なまちづくりの施策が、それぞれ連携をとって進めていないというのは、まちの未来につながる計画としてはいかがなものか。
- 市内全域が、未来の世代に誇れるまちとなるよう、これまで以上に多くの知恵を出して、何が必要なのか、重要なのか、慎重かつ十分に検討してほしい。



平成26年度 6月一般会計補正予算 補正予算総額 : 5億76149千円

◆市政活性化アドバイザー事業

補正額 974万3千円

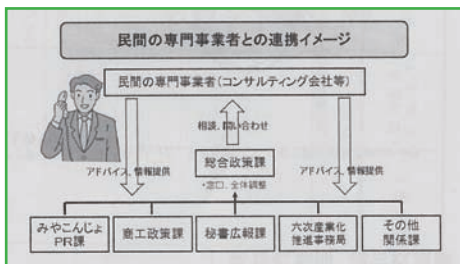
1 事業目的

PR戦略等の知識やノウハウを有する専門事業者（コンサルティング会社等）にアドバイザー業務を委託し、外部の視点によって本市の隠れた魅力を見出すとともに、先進事例に関する情報提供やアドバイスを受けながら、施策立案機能の強化や効果的な事業の実施を図ることを目的とする事業。

2 委託業務内容及び期間

- ① PR戦略 ② 中心市街地活性化 ③ 物産・観光の振興
④ その他の市政活性化に関すること 等

※委託期間：平成27年3月31日まで



◆ぼんちくん活用事業

補正額 307万7千円

1 事業目的

PR戦略強化の一環として、みやこんじょ大使で唯一のキャラクターである「ぼんちくん」を、子どもから大人まで親しまれるPRキャラクターとして活用し、都城市をこれまで以上に対外的にPRするものです。

2 事業概要

- ぼんちくん「着ぐるみ」を作成
- 等身大パネルを市内の観光地等の公共施設に設置
- 「ぼんちくん支え隊（仮称）」を組織し、操作者は公募で募集。

※平成27年1月から市内のイベントなどで地域盛り上げるとともに、東京などの県外で行われる物産展などでPR活動を行う。



◆新燃岳降灰収集運搬業務水増し詐欺事件について100条委員会設置

本年1月の改選直後、新燃岳降灰収集運搬業務関わる水増し詐欺事件が大きく報道されました。本件に関しては、私の所属する担当委員会である「産業経済委員会」に付託され、議会の開会期間のみならず閉会中も度々委員会を開催しておりました。

委員会では、本件の担当部署である環境森林部が中心となり事件が起きた経緯などについて調査して参りました。その中で、一定の成果として、「被害届を提出した経緯」、「降灰収集運搬事業者の選定」、「一般廃棄物組合の設立について」、「組合加盟業者への市職員OBの再就職問題」、「詐欺事件が起きた要因」などを得ることができました。

しかしながら、委員会の調査権限では限界があり、これ以上の原因究明は難しいと判断し、関係者の出頭、証言、記録の提出等を請求できる100条委員会での調査が望ましいと結論づけました。この結果を私も所属する議会運営委員会で審議し、委員会提出議案として「新燃岳降灰収集運搬業務詐欺事件及び降灰処分場管理業務の調査に関する決議案」が出され6月20日に可決されました。今後は、6月8日を皮切りに毎週火曜日午前中に委員会が開かれる予定です。引き続き問題の究明に取り組んでまいりますのでご理解の程宜しくお願い致します。



◆都城志布志道路の経過について

さる、5月30日（金）に「地域高規格道路 都城志布志道路整備・活用促進大会」が都城市総合文化ホール（大ホール）で開催され大会決議が採択されました。参加者は総勢1700名にのぼり、都城志布志道路早期開通への期待の高さを実感しました。全線開通すれば現在の70分（都城IC～志布志港：約44km）要する時間が40分に短縮されます。所属する都城志布志道路特別委員会でも国、県に対し早期開通に向けて働き掛けをしております。次の開通区間は下記の区間です。

◎国交省所管区間：南横市IC（仮称）～平塚IC 2.8km平成30年供用開始予定

今後の課題として（梅北工区/金御岳工区）には「遺跡」が多数出てきており発掘に時間がかかっている点があげられます。梅北工区では6箇所、金御岳工区については4箇所確認されているが、こちらは地層が3層にわたっており発掘に時間がかかるとみられています。遺跡の中身によって発掘期間はことなるそうですが、約1年はかかるため整備に時間がかかります。その他、予算の獲得や用地買収についてはも早期開通には欠かせない課題です。今後も早期開通に向け取り組んでまいります。

